

第4章 これまでの取り組みの成果

1 各分野における成果

久留米市では、2011年にセーフコミュニティ活動を開始し、2013年の認証取得以降も継続して地域や団体・組織と協働の取り組みを実施してきたことで、様々な成果につながっています。

① 交通安全

《他団体と連携した交通安全啓発活動》

学生、高齢者団体、民間企業、市等と協働で、各イベント等において反射材を配布するなど、連携の輪が広がった。

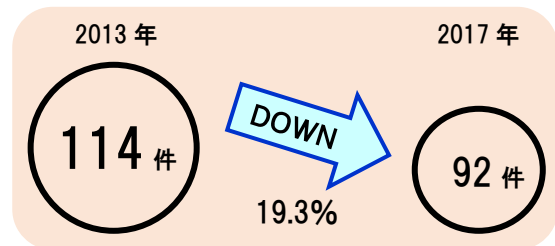
《防犯対策委員会と連携した啓発活動》

防犯分野と合同でイベントを実施したり、防犯団体の見守り巡回活動時に事故防止の啓発物を配布するなど、対策委員会間の連携が図られた。

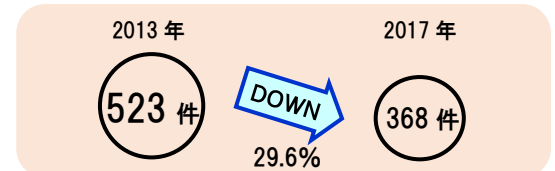
《民間企業からの支援》

交通安全の取り組みやSC活動に賛同した民間企業から交通安全教室で使用する教室用信号機が寄贈された。

高齢者の交通事故発生件数
(高齢者人口10万人当たり)



自転車の交通事故発生件数



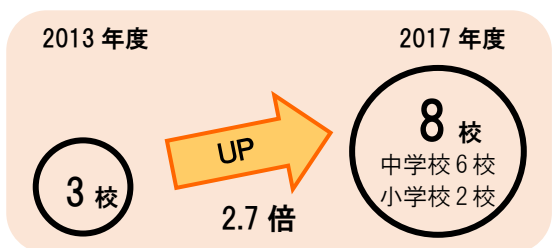
出典：警察統計

② 児童虐待防止

《学生や団体と連携した児童虐待防止啓発活動》

大学の学園祭で児童虐待防止の啓発や、学生と子どもたちの協働による取組の実施、関係団体や市等が合同で街頭キャンペーンを実施するなど、学生、関係団体、市等の連携が強化された。

赤ちゃんふれあい体験の実施校数



出典：久留米市家庭子ども相談課統計

③ 学校安全

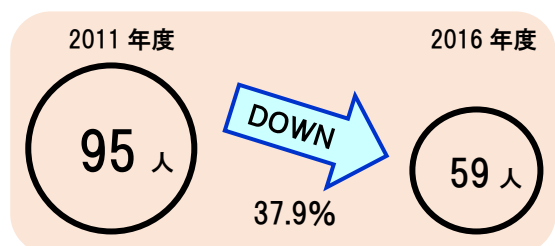
《児童の意識向上と活性化》

児童会が主体となり、毎月21日のSCの日には校内放送による安全の呼びかけや、けが予防の工夫が図られるなど、児童の意識向上と活動の活性化につながった。

《学校での防災活動を新たに開始》

学校での災害発生に備え「災害から身を守るための取組」を学校安全対策委員会の新規施策として追加した。

モデル校でのけがの発生件数



※モデル校・・・上津小学校

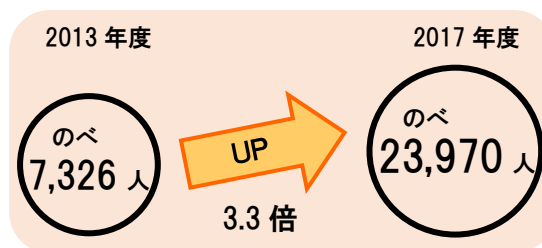
出典：日本スポーツ振興センター統計

④ 高齢者の安全

《対策委員会でパンフレットを作成》

医療関係者や介護事業者、高齢者団体などから構成される高齢者の安全対策委員会の中で、各分野の視点を持ち寄り、転倒予防パンフレットを作成した。このパンフレットは、各団体等を通じ、様々な啓発の機会で使用され、有効な活用につながった。

認知症サポーターの養成者数



出典：久留米市長寿支援課統計

⑤ 防犯

《関係団体と連携した合同パトロール》

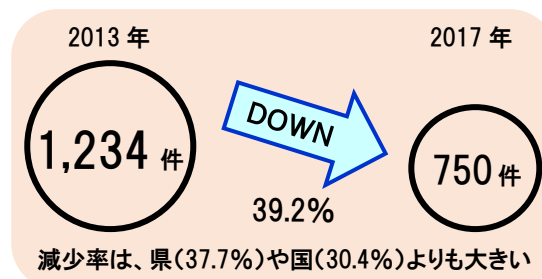
地域団体、警察、市等と合同で、犯罪多発地域を重点的に巡回する「合同パトロール」を開始したことで、犯罪の抑止に加え、各団体間の連携の強化、地域の防犯団体の意識向上、活動の活性化につながった。

《企業・団体・個人からの支援》

地域の自主防犯活動やS C活動に賛同した民間企業や団体、個人から、防犯活動を目的とした「青色防犯パトロール車両」が寄贈された。[2015～2017年：計11台]

犯罪件数の減少率

(人口10万人当たりの一般刑法犯認知件数)



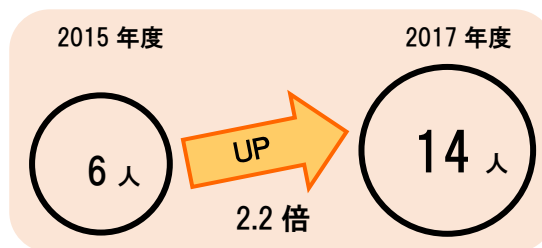
出典：警察統計

⑥ DV防止

《医療関係者向けマニュアルの作成・医療機関との連携》

医療機関と市が協働で「医療関係者向けDV被害者対応マニュアル」を作成し研修を行ったほか、市内すべての医療機関にマニュアルを配布した。その後も、マニュアルの利用促進に向けダイジェスト版を作成するなど、医師会、医療機関、市等の連携が強化され、DV被害の早期発見につながった。

医療機関から繋がった相談者数



※2015年から調査開始

出典：久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計

《民間企業との連携》

対策委員会の中で新たな展開を検討し、美容組合へアプローチしたところ、組合に加盟する各店舗へ「DV防止カード」の設置が可能となるなど、民間企業と対策委員会の新たな連携が図られた。

《民間団体からの支援》

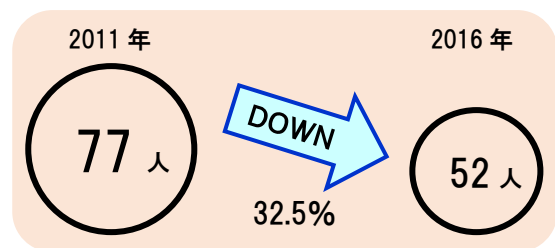
DV防止活動やS C活動に賛同した民間団体から、DV防止のシンボルである高さ4mのパープルツリーが寄贈された。

⑦ 自殺予防

《医療機関や民間団体との連携》

- かかりつけ医から精神科医へつなぐシステムを構築し、医療機関の連携体制を整備・強化したことで、患者の早期発見・早期治療につながった。
- 早期発見・早期対応につなげるための新たな相談窓口として、気軽に足を運びやすい商業施設内に「こころの相談カフェ」を開設したことで、相談機会の拡充や民間企業、団体、市等の連携が強化された。
- 対象者に接する機会の多い理容師へのゲートキーパー研修の実施や、理容組合と協働した啓発物の作成など、民間企業と対策委員会の新たな連携が図られた。

自殺者数



出典：人口動態統計

⑧ 防災

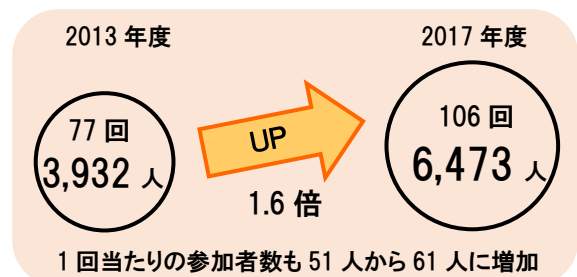
《校区間の連携》

各校区の自主防災組織間で、独自の研修や訓練の内容等について情報交換や共有化を図ることで、取り組みの工夫や連携の強化につながった。

《防災意識の向上》

近年の災害発生状況やセーフコミュニティ活動の推進により、校区の研修回数が増加し、災害発生時に重要な「自助」「共助」の意識が高まるなど、市民の防災意識の向上につながった。

自主防災訓練・研修の実施回数と参加者数



出典：久留米市防災対策課統計

このように、セーフコミュニティの仕組みを活用し、全市一体となった予防活動を継続してきたことで、けがや事故件数の改善といった数値的な成果と併せて、地域、企業、団体、行政等との新たな連携やさらなる連携の強化が図られるとともに、市民の安全・安心に対する意識の向上にもつながっています。

2 事前指導後の新たな取り組み

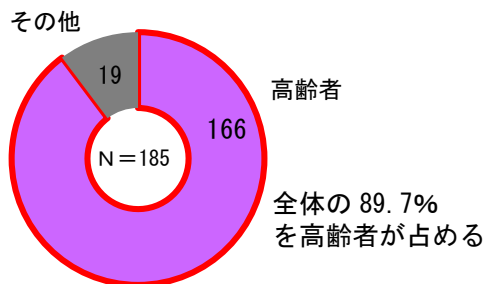
溺死・溺水への対応

地域診断を行うなかで、人口動態統計を見ると、高齢者の死因の上位を「溺死・溺水」が占めるという状況に加え、2017年に実施した事前指導の中で「溺死・溺水」のリスクへの助言を受けたことなどから、外傷等動向調査委員会や対策委員会で検討した結果、その重要性を踏まえ「溺死・溺水」について研究・分析を行い、対応する必要があると判断しました。

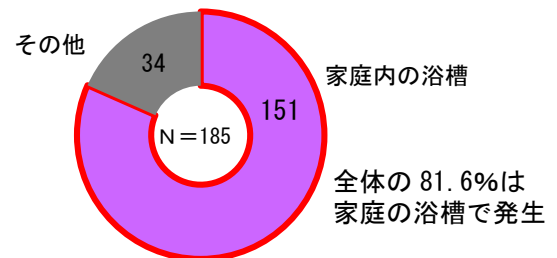
図表 18 年齢層別外的要因による死亡原因(抜粋) 出典：人口動態統計（2012～2016年までの5年間）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
60～69歳	自殺 49	溺死・溺水 24	窒息 17	交通事故 転倒・転落 各11	その他不慮の事故 8
70～79歳	溺死・溺水 48	自殺 42	窒息 37	交通事故 15	転倒・転落 14
80～89歳	溺死・溺水 87	窒息 53	転倒・転落 その他不慮の事故 各38	自殺 21	交通事故 7
90歳～	転倒・転落 30	窒息 23	溺死・溺水 18	その他不慮 の事故 12	自殺 交通事故 各3

図表136 「溺死・溺水」のうち高齢者の割合

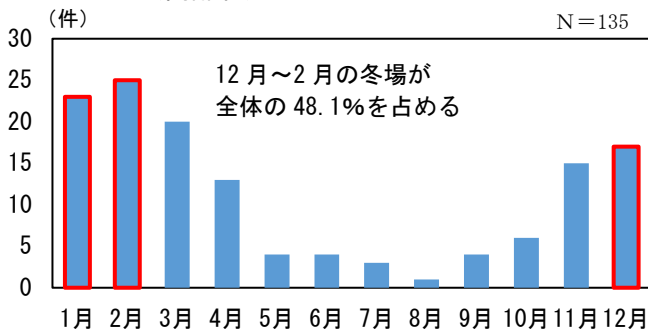


図表137 「溺死・溺水」のうち事故現場が家庭内の浴槽の割合



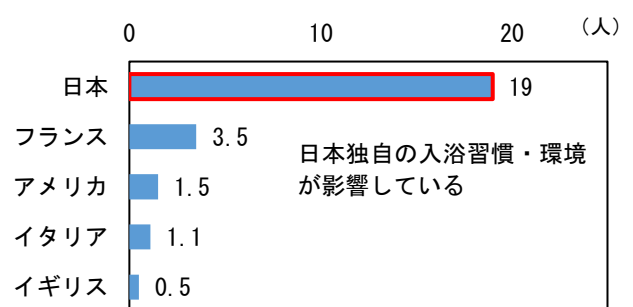
出典：人口動態統計（2012～2016年までの5年間）

図表138 月別家庭内の浴槽における溺死・溺水(高齢者)



出典：人口動態統計（2012～2016年までの5年間）

図表139 各国の高齢者の溺死者数(人口10万人当たり)



出典：消費者庁資料引用

図表 140 入浴中の事故に対する認識や入浴の実態等 出典：「入浴に関するアンケート調査」消費者庁 N=3,900

入浴中の事故は、高齢者に多いことを知っている	78%	①入浴中のリスクに対する認識が低い ②防寒対策が十分にできていない
浴槽で非常に多くの死亡事故が発生していることを知っている	49%	
持病がなく、普段元気な人にも起こることを知っている	34%	
冬の寒い日でも、浴室等を暖めるなどの対策を実施していない	36%	
入浴中にのぼせる、意識を失うなどの「ひやりとした経験」をした	9%	

課題解決に向けた方向性と取組の整理

課題		方向性	対策
客観的	① 「溺死・溺水」は、高齢者の死亡原因の上位にあり、90%近くが高齢者である【図表 18、136】	入浴に対するリスクや環境改善に向けた啓発	【対策 1】 高齢者向け転倒予防パンフレットを一部改訂し、「浴槽での溺死予防」を追加
	② 「溺死・溺水」の事故は、約80%が家庭内の浴槽で発生している【図表 137】		
	③ 高齢者の浴槽における事故の半数近くが、12月～2月の冬場に発生している【図表 138】		
主観的	④ 入浴中のリスクに対する認識や対策が十分でない		【対策 2】 現行の「熱中症予防対策の取組」と併せて「浴槽での溺死予防」を啓発
	⑤ 急激な温度変化に対する防寒対策が十分にできていない		

以上のような分析結果から、今後、久留米市では、高齢者の安全対策委員会の取り組みの中で「浴槽での溺死予防」の取り組みを加え、予防活動を展開していきます。

【対策 1】 高齢者の安全対策委員会で作成・活用されている「転倒予防パンフレット」を一部改訂し「浴槽での溺死予防」の視点を取り入れ、転倒予防と併せて様々な機会に啓発に取り組んでいく。

【対策 2】 保健師、地域包括支援センター、民生委員等と連携して行われている高齢者などへの熱中症予防の注意喚起やチラシ配布活動に併せて、「浴槽での溺死予防」の周知啓発に取り組んでいく。

第5章 セーフコミュニティ活動の長期展望

1 今後のセーフコミュニティ推進に向けた方針

(1) セーフコミュニティの基本理念の共有

「けがや事故は偶然の結果ではなく、原因を究明することで予防できる」というセーフコミュニティの基本理念を多くの市民と共有するため、セーフコミュニティの普及啓発活動に努めます。

また、警察、消防、市など地域の安全に関わる機関をはじめ、学校、医療機関、地域活動団体や民間団体等との連携を深め、安全・安心に関する活動の輪を広げていきます。

(2) 外傷データ等の有効活用と継続的な取り組みの実施

外傷等動向調査委員会をはじめ、各分野・組織において収集されたデータを分析し、対策委員会における課題解決に向けて有効活用することで、根拠に基づいた安全対策を実施します。

また、毎年、年間活動報告書を作成して支援センターに報告することで、外傷等動向調査委員会や対策委員会において PDCA サイクルに沿った活動の振り返りを行い、取り組みの評価・効果確認を行いながら、見直しや改善を図っていきます。

(3) 地域活動の推進及び活性化

久留米市では、小学校区単位のまちづくりを進めており、セーフコミュニティの仕組みを活用しながら、校区内で自主的に行われる安全・安心活動を推進しています。

安全・安心に関する情報を校区へ積極的に提供するとともに、校区間の交流をはじめ他団体との連携を図ることにより、安全・安心活動を市内全域に展開できるように努めます。

(4) 国内外のネットワークとの連携

国内外のセーフコミュニティネットワークへの参加を計画的に実施し、各コミュニティと情報共有を行います。国内においては、セーフコミュニティ活動を通じ、認証自治体や準備自治体との協力体制を築いていくとともに、活動が全国に広く認知されるよう努めます。

2 基本計画への位置づけ

久留米市では、市政の指針となる「久留米市新総合計画」や人口減少・超高齢社会に対応し持続可能な地域社会の形成を目的とする「久留米市キラリ創生総合戦略」を策定しており、都市づくりの基本理念や目指す都市の姿の実現に向けた手法のひとつとして、それぞれの計画の中に「セーフコミュニティの推進」が位置付けられており、今後も継続的に取り組んでいきます。

様々な分野にわたる安全・安心の施策の展開について、セーフコミュニティの仕組みを活用することで、PDCAサイクルに沿った体系的な取り組みを協働で進め、すべての市民の安全・安心の向上のための取り組みを継続的・効果的に実施していきます。

図表 141 長期的なセーフコミュニティ推進スケジュール

